

名古屋大学博物館展示品2件が、公益社団法人日本顕微鏡学会より「第2回 顕微鏡遺産認定」に認定されました。

公益社団法人日本顕微鏡学会HP <https://microscopy.or.jp/heritage/heritagelist>



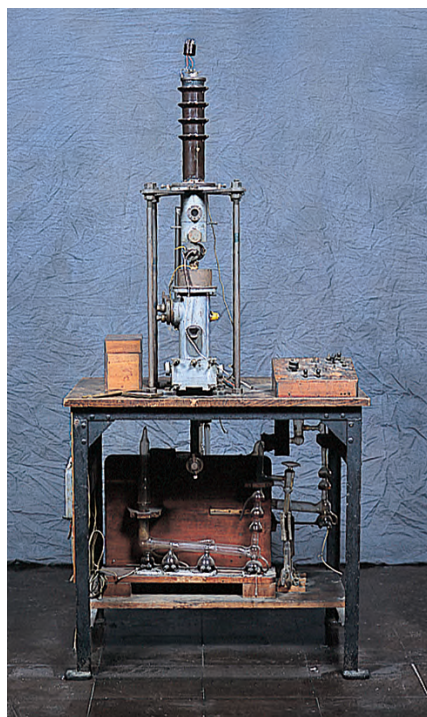
遺産名:「透過電子顕微鏡 HU-2型」

推薦者:株式会社日立ハイテク 統括主任技師 稲田博実氏

透過型電子顕微鏡HU-2は、1942年に日本最初の商用電子顕微鏡として日立製作所により開発されました。電子顕微鏡を制作するための様々な光学的技術が、欧米からの技術導入に頼らずに日本での自主開発により進められた結果、日本の先端技術開発に大きく貢献したほか、1955年ごろまで稼働する間、研究者らの電子顕微鏡のノウハウの蓄積にも貢献しました。



株式会社日立ハイテクHP <https://www.hitachi-hightech.com/jp/ja/news/nr20250623.html>



遺産名:「真空蒸着装置を組み込んだその場反射高速電子回折装置」

推薦者:名古屋大学未来材料・システム研究所 齋藤晃 教授



この装置は、1940年に上田良二名古屋大学名誉教授の設計により、真空蒸着装置を組み込んだ反射電子回折装置として製作されました。上田先生は当時、亜鉛の煤の研究を行っていましたが、この装置により、金属亜鉛の加熱後に付着する煤の「その場観察」に成功し、それが10ナノメートル以下の金属超微粒子であることをはじめて明らかにしました。この装置は、戦後の超微粒子研究だけでなく、現在の日本のナノテクノロジー研究の歴史を物語る記念碑的な存在となっており、日本顕微鏡学会顕微鏡遺産に相応しいものとして推薦されました。

なお、今回の顕微鏡遺産認定では、本学超高压電子顕微鏡施設の「30万ボルト超高压電子顕微鏡の開発」も認定されています。